

万葉集の植物 春の花 part. 2

渋谷孝子（流山市）

日時：2022 年 3 月 21 日（春分の日）
場所：Zoom にて実施 パレット柏（柏市）
講師：前田 悦子
担当：川瀬、三嶋

好評だった昨年 12 月東葛しぜん観察会の総会時の研修会「万葉集の植物 春の花」の続編を前田さんに講義していただいたので、ひとつご紹介いたします。



○『春^{はる}過ぎて 夏^{なつ}来るらし 白^{しろ}梶^{たえ}の 衣^{ころも}干^ほしたり 天^{あめ}の香^か具^ぐ山^{やま}』 卷 1・28 持^じ統^{とう}天^{てん}皇^{こう}

意：春が過ぎて 夏がきたらしい 真っ白な衣が 干してある 天の香具山には

梶はコウゾ。“たく”というときは植物をうたっており、“たえ”と言うときは梶の繊維で織った布をうたっている。

コウゾは野生種のヒメコウゾとカジノキの交配種で 610 年ころ 製紙技術とともに中国から渡来したといわれている。コウゾが伝わるまではヒメコウゾのことをコウゾと呼んでいたので、万葉の歌がコウゾかヒメコウゾか、年代的には判断が難しいところだそう。



ヒメコウゾ



コウゾ



カジノキ

花も葉の様子も似ているが、カジノキの葉の裏に毛が多くビロードのような手触り。ヒメコウゾは葉柄が短く、カジノキは長く、コウゾは中間。このあたりで普通にみられるのはヒメコウゾ。そのほか日本の和紙の原料として使われる植物はミツマタ、ガンピがある。 などなど

そのほか、棟^{おうち}（センダン）、苧^{さうけふ}（サイカチ）、藤、桃など、興味深いお話を伺いました。具体的なお話は是非 YouTube でご覧ください。 <https://youtu.be/jfI5driysqU>
東葛しぜん観察会のHPから入れます。